

兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会 [第1回総会] 議 事 要 旨

I 日 時：平成28年7月12日（火）13：30～15：00

II 場 所：兵庫県農業共済会館 7階大会議室

III 出席者

別紙1のとおり

IV 議 事

- 1 兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定について
- 2 平成27年度 プロジェクト事業実施結果について
- 3 平成28年度 プロジェクト事業実施スケジュールについて
- 4 プロジェクトへの登録状況等について

V 主な内容

- 1 開会
- 2 兵庫県産業労働部長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 事務局資料説明
事務局から議事1、2、3、4について資料をもとに説明
 - (2) 意見交換
別紙2のとおり
- 4 閉会

出席者 34 名（構成員 23 名、オブザーバー、県・推進協議会事務局 10 名）

構成員（23名）

宮本 要	公益社団法人兵庫工業会専務理事
足立 誠	兵庫県商工会連合会専務理事
内田 雅康	兵庫県中小企業団体中央会事務局長
福永 明	日本労働組合総連合会兵庫県連合会事務局長
足達 和則	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）
橋本 芳純	公益財団法人新産業創造研究機構専務理事
藤原 政幸	公益財団法人先端医療振興財団常務理事
山田 猛	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所専務理事
安井 宏	公益財団法人計算科学振興財団専務理事
角 正憲	公益財団法人ひょうご産業活性化センター常務理事兼企画経営室長
後藤 章暢	公益財団法人神戸国際医療交流財団代表理事
小林 滋	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構理事
窪田 雅夫	一般財団法人兵庫県雇用開発協会専務理事兼事務局長
太田 勲	兵庫県立大学理事兼副学長兼産学連携・研究推進機構長
小高 裕之	神戸大学連携創造本部副本部長
小川 賢一	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長
岩崎 佳文	株式会社三菱東京UFJ銀行コーポレート情報営業部調査役
野村 和輝	株式会社みずほ銀行神戸第一部渉外一課課長代理
濱 稔樹	播州信用金庫経営企画部経営企画課代理
鮫島 成人	兵庫労働局職業安定部雇用情報官
今西 正男	神戸市理事（医療・新産業担当）
片山 安孝	兵庫県産業労働部長
竹村 正樹	兵庫県産業労働部政策労働局長

オブザーバー

武田 美奈子	近畿経済産業局産業人材政策課長
--------	-----------------

県・推進協議会事務局（10名）

竹村 英樹	産業労働部産業振興局長
安部 斉	産業労働部政策労働局産業政策課長
守本 豊	” 産業政策課企画調整参事
山下 裕司	” 産業政策課政策班長
城 友美子	” しごと支援課長
安部 則行	” 産業振興局工業振興課長
宮口 美範	” 新産業課長
竹村 公秀	” 産業立地室長
杉浦 聡	企画県民部科学情報局科学振興課長
安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

議事要旨（意見交換）

○事務局

ただいまから、次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会、平成28年度の第1回総会を開催します。本会議については、昨年度と同様、本県の取り扱いに準じ、公開とします。それでは、開会にあたりまして、推進協議会会長の兵庫県産業労働部長から、ご挨拶を申し上げます。

産業労働部長あいさつ

新規・交代の構成員の紹介

○事務局

それでは、議事に入りたいと思います。議事の1つ目は、兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定についてです。資料1に基づき、産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

○事務局

ただいまの説明について、ご質問・ご意見等はございませんでしょうか。ご質問等がなければ、協議会規約の改定について、ご承認をいただいたこととさせていただきます。

続きまして、議事2の平成27年度プロジェクト事業実施結果及び議事3の平成28年度プロジェクト事業実施スケジュールをまとめて説明します。資料2の実施結果を中心に各事業所管課室から説明しますが、事業実施主体の皆様から補足等ありましたら、全事業説明後に時間を設けていますので、その際にいただきたいと思います。また、事業取組に対するご意見等についても、全事業説明後に、意見交換をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、まず新産業課班長から説明します。

新産業課班長の説明

○事務局

続きまして、工業振興課長から説明します。

工業振興課長の説明

○事務局

続きまして、産業立地室長から説明します。

産業立地室長の説明

○事務局

続きまして、科学振興課長から説明します。

科学振興課長の説明

○事務局

続きまして、しごと支援課長から説明します。

しごと支援課長の説明

○事務局

続きまして、産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

○事務局

以上で全事業について、資料2の実施状況を中心に説明しました。続いて、議事4のプロジェクトへの登録状況について説明します。資料4に基づき産業政策課企画調整参事から説明します。

産業政策課企画調整参事の説明

○事務局

それでは、残りの時間で各事業実施主体の皆様からの補足説明ですとか、事業構想の推進、各事業の取組に対するご意見等をお願いします。

○A委員

たくさんのお事業を実施していますので、責任を感じています。今ご説明ありましたが、このプロジェクトは、企業にとって非常に使いやすい制度だと考えています。次世代産業への参入を考えておられる企業にとっては、比較的無理をせずに補助金を使うことが、次世代産業育成への1つの大きな玄関になるプロジェクトだと考えています。

ただ、このプロジェクトには3年の期限がありますが、次世代産業への参入ということになると、なかなか短期間では難しいというのが実際のところ。このプロジェクトで支援を受けた企業に、次のステップをどういうふうにサポートしていくか、ある程度のきっかけをつかんだ企業をいかにサポートしていくのが非常に大事だと痛感しています。

昨年ある企業をこのプロジェクトで支援して、その企業が次に県のCOEプログラムに採択されたという例も出ています。次のステップに繋げていって、事業化まで持っていくような努力を継続すること、これがないと大きな雇用にも繋がらないでしょうし、皆様のご協力を得て、一緒にやっていきたいと考えています。

○B委員

当方では、次世代産業の創出に繋がるような川下企業と一般の下請け企業とのマッチング事業を昨年度から開始し、その結果アウトカムとして4名の雇用を創出しましたが、本当は、実際に商談会をやった結果どれだけ成約があったのかが大事だと思っています。昨年度は商談会を4回しましたが、その中で、4社で1、500万ほどの商談が成立し、この4社がなんとか次世代産業の分

野に参入できたということで、成果があったと思っています。

その他、9月9日には、国際フロンティアメッセにあわせて、今回は保健大臣会合があることから、医療関係がメッセのテーマになっていますので、中小企業に医療機器ビジネス市場へ参入していただこうと思い、セミナーを開催する予定です。ここにお集まりの方で興味がある方は、ぜひ参加いただきたいと思います。

○A 委員

金融機関の方がいらっしゃっていますので、ひとつ質問です。金融機関では色々な企業の財務内容・経営状況など把握していると思いますが、支援している企業の中で、次世代産業に参入できそうな企業をどんどん我々の方に紹介していただいたり、プロジェクトを推薦していただいたり、そういうふうな動きはありますか。

○C 委員

ご質問の件ですが、次世代産業にはどの銀行も非常に注目していて、成長産業のクラスターを作り、横断的な組織・チームを作って対応しています。その中で兵庫県でも次世代産業を担う企業を発掘していくというのは銀行の使命でもありますので、積極的に取り組んでいきたいと思っています。先般、第1回の締切があったオンリーワン企業の募集など、そういう事業を2回3回とやって、もっと積極的に企業を引き出していくようにもっていかねばと思っています。

○D 委員

インシリコ創薬について、アプリケーションソフトの完成版、第一版ができましたので、今年度については有償で配布できるようにしたいと思っています。それから、27年度は再生医療促進のための勉強会を4回開催しましたが、28年度は2か月に1回開催し、年6回を目指して支援していきたいと考えています。

○E 委員

私どもは、支援機関としてもものづくり関連での企業からの技術的な問い合わせなどに対応していますが、個々の機関でやるのではなくて、県全体のプロジェクトとして色々取り組まれているという中の一環としてやっていますと、やはり企業から見ると非常に分かりやすく、我々の職員にしても大きなドライビングコースになっていて、非常に仕事が進むという印象を受けます。

このプロジェクトでよく講演会をやっていて、大学の先生や専門家の方たちには、非常に喜んでお話いただきありがたいのですが、事例ということで、企業の成功事例や取組を話していただこうとすると、守秘義務の関連もあり、なかなか実現が難しいです。今交渉しているのも、話題を限定してやってくれないとか、川上から川下をグルーピング化してその中だけで話してもらおうとか、色々な枠組でやっていますが、その辺をどういうふう引き出して話してもら

のか、具体的にどういうふうにやっていくのかは、まだこれからです。

○F委員

私どもの事業で、中小企業にとってスーパーコンピュータを使ってシミュレーションをするというのは非常にハードルが高いわけですが、この事業のおかげで、国立大学の教授をコーディネーターとして雇い、様々な相談に乗っていただいています。さらには、FOCUSスパコンというスーパーコンピュータの利用についても支援しています。

兵庫県には、SPring-8もあり、京をはじめとする様々なスパコンもあるということで、企業の先端技術開発にとっては非常に良い環境です。実際、我々のFOCUSスパコンの利用者の中でも、SPring-8の利用者は非常に多いですから、その辺の横の連携なども考えていきながら進めていきたいと思っています。

○G委員

当方では医工連携人材育成事業を担当しており、人材育成をメインに取り組んでいます。元々私自身は、大学の中から医工連携で医療機器の開発に携わっていきまして、これまで20年近くやってきましたが、多くの失敗があり上手くいっていない。やはり人材育成が重要で、大学の先生が喋ったところで、企業の方は聞いていても分からないので、できるだけ現場に入られるような人材を作り、手とり足とり指導して、成功例を作っていくということが今一番必要なことであり、そういう意味での人材育成に取り組んでいます。

そのためにもぜひ、ここにお集まりの組織が連携して、有効的に雇用を生み出す、新しい産業を作っていくことが大事で、それを県が主導するような体制をぜひ作っていただきたい。一組織でやれることは、単にセミナーや補助金を付けるということだけで終わってしまい、出口が少しずれていってしまいます。私も20年間そんなことをやっていて、なんとか打開しないとイケないと考えており、その意味でこのプロジェクトに期待しておりますし、当方もできるだけ力になれるようにやっていこうと思いますので、よろしくお願いします。

○H委員

私どもの取組の趣旨はロボット関連技術を用いて社会が直面している人口減少などをできるだけ捉え、県内の企業を中心に、そういうものを興していくということで、主に育児支援、これはカメラで乳幼児の呼吸状況を見守るというようなことをやっております。それから家事支援としては、雨が降ってきましたら自動的に物干し台を取り込むもの、農業支援としては、高齢化もありますので、畔の作業とか収穫作業の時にいかに労力を軽減するかという、割とニッチですが、おそらく現場では大変問題になっていることをロボットを使って解決するというものです。どの分野においても、今そういう設計や検証をして、例えば呼吸状況の見守りでしたら、専門家として医師の意見を聞くような段階にきていますが、こうした身近にある問題をロボットで解決しようと取り組んでいます。

○I 委員

中小企業ではなかなか技術者を雇用できないという状況があります。中小企業のみなさんには、自分たちの企業の魅力なり力を外向きに発信するため、説明会への参加等をお願いしています。東京での説明会についても、兵庫応援企業という、兵庫県の若者を積極的に応援し雇用いただく企業を整えていきたいと考え、その企業の情報を発信し、東京で学生の面談等を実施しています。兵庫の中小企業も力がありますが、なかなか学生さんの方への認識が少なく、今後も説明会等に積極的に参加いただく形で、雇用支援、就業支援、そして学生さんにも本当にいい企業が兵庫県にあるということを知っていただけるよう進めていきたいと思っています。

○J 委員

我々の事業は、次世代産業を目指す企業の技術力の高度化というような、兵庫県の特徴である放射光やスパコンを活用して、技術開発の支援事業をしています。企業にとって敷居が高いと困りますので、コーディネーターとしては、企業で材料開発の経験があり、かつ営業をやっていたコーディネーター等を配置しております。ご承知のように、兵庫県のSPRING-8のビームライン等を我々の産学連携研究推進機構が管理しておりますが、それと本学が持っている中型の放射光施設ニュースバルの利用、それから、ここ数年は新材料の開発に関係して、放射光とスーパーコンピュータ、計算科学と融合した技術を理解する人材が必要だということもあり、放射光と計算科学の研究会を年2回程度開催しています。それと同時に、播磨科学公園都市にある高度産業科学技術研究所の先端的な機器を地元の企業にも開放しようということで、利用機を整備して、昨年末からオープンファシリティという形で、公開して使っていただく制度も作っています。

この次世代産業を支える基盤ということで、資料に5つの事業並んでおりますが、特にNo. 19、20、21というような事業は、それぞれ個別にはなっていますが、相互に関係している部分が非常に強いので、横の連絡を密にしながら、トータルとして技術の高度化に繋がる人材育成を進めています。また9月2日には、放射光・計算科学の研究会を開催する予定で、順調に事業を進めていきたいと思っています。

○K 委員

当方では、今、J委員からお話がありました放射光・スパコンの相互利用ができる高度な人材の育成を担当しています。講義の方はかなりこなしていますが、なかなか雇用創出には至っていません。ただご承知のように、放射光・スパコンなど兵庫県の目玉の施設を利用するというので、基本的には、蛋白質の構造の解析ですが、単にそういうことを教えるだけではなくて、科学そのものをより高度化したことを教えていく、あるいは、それを大学側もリードしなければいけないと思っ

している中で、いろいろな企業が、地場企業も含めて、比較的興味を持ってきているという状況です。

そういう中で、やはり単に教育する技術を教えるだけではない、イノベーションを意識したような取組を一緒になって考えていけたらと思っています。全体事業の中にいろいろなサイエンスがありまして、水素エネルギー、ロボット、医療機器、工学等ありますが、それらも今、当方では工学研究科、システム情報学研究科、あるいは医学研究科等で進め、イノベーションの創出を目指していますので、そういった情報を皆様と接する機会にいろいろお話しできたらと思っています。

○L委員

私どもも事業実施機関として、医療産業都市には300社を超える企業が集積していますが、今までなかなか取り組めなかった介護やリハビリロボットの関係、スパコンを使った創薬などに新たに事業として取り組むことができたということは大変ありがたいと思っています。ただ、A委員が先ほど言われたように、新しい事業で、特に新産業というのは助走期間が非常に長いということがあって、こういった補助等がもう少し長期であればありがたいというのが正直なところです。こういったプロジェクトが、今後も出てくる可能性があるのかどうか、情報がありましたら共有いただきたいと思います。

○事務局

貴重なご意見等いただきまして、ありがとうございます。本日のご意見等を踏まえまして、みなさまと連携を密にして、プロジェクトの推進に取り組んでまいります。

これで、本日の議事は全て終了いたしました。それでは、これをもちまして、第1回総会を終了させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。